



特定非営利活動法人「人間の安全保障」フォーラム

**Human Security Forum (HSF)**

**2019年度活動計画書**

**2019年6月**

## 目次

I はじめに .....	3
II 2019 年度活動計画 .....	4
1. 人間の安全保障のための学習支援プロジェクト .....	4
2. 各種連携、教育プロジェクト .....	5
3. ANRIP 会議の開催とまなび旅 .....	5
4. 「日本の人間の安全保障指標」プロジェクト .....	6

## I はじめに

2019年度より山下理事長からバトンを引き継ぐことになりました。「人間の安全保障」フォーラム（HSF）は、2011年東日本大震災の年に設立以来、今年で9年目を迎えますが、この間、被災者支援、子どもの未来館、学習支援、難民関連の各種連携・教育プロジェクト、学びの旅、セミナーなどの活動を通じて、人間の安全保障の実践に努めてきました。

2019年度は、引き続き各種の教育・啓蒙活動、学びの旅等を通じた難民関連の国際的な活動、群馬県館林市での学習支援、人間の安全保障指標などの活動を通じて、人間の安全保障の理解、支持を増やす努力を継続する計画です。

今までHSFをリードしてこられた山下晋司前理事長、理事、会員の皆様、活動に参加して下さった皆様、ご支援いただいた多くの方々、団体の皆様に心から感謝いたします。

私にとっては初代理事を務めてから2度目の登板になりますが、創立当時の実践を重視する気持ちを新たにして、新機軸を求めてさらなる活動の発展、組織運営の強化を図る所存ですので、今年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

2019年6月

理事長 高須幸雄

## II 2019 年度活動計画

### 1. 人間の安全保障のための学習支援プロジェクト

内尾太一 常務理事

宮下大夢 理事

山崎真帆 理事

2017 年度より継続的に展開してきた群馬県館林市における学習支援プロジェクトが、徐々に安定したものになりつつあることは、活動報告に既述した。

しかしながら 2018 年度末に実施した「保護者会」において、勉強会の日数を増やしてほしい、子どもたちの学習内容のフィードバックが欲しい等の意見が挙がり、子どもたち・保護者のニーズと HSF が提供してきた支援内容との間に未だ隔たりがあることが確認された。また、2019 年の初頭より日本語が話せない子どもが本プロジェクトに参加しているなど、子どもたちの多様性に対応できる体制の構築も急務である。HSF としては、東京―館林間の距離の問題等、本プロジェクトにかかる様々な制約を認識しながらも、より良い支援のあり方を模索していきたい。

特に、以下の 3 点に重点的に取り組んでいく。

1. 活動内容：活動内容については、現行の学校での勉強（宿題やテスト勉強など）のサポートに加え、子どもたちの多様性（日本語リテラシーや学習意欲の程度等）に配慮した個別サポートを提供するなどして拡充していきたい。
2. 保護者とのコミュニケーション：「保護者会」の定期開催や子どもたちの学習の進捗状況を記載した「連絡帳」の交換等を行い、保護者とのコミュニケーションを密にしていく。
3. 支援体制の安定化：館林市に居住する地域住民の協力を得たり、市内の住民組織と連携したりして、支援体制を安定させる。また過去の実績をもとに助成金の申請にも取り組み、本プロジェクトの持続可能性を高めていく。

## 2. 各種連携、教育プロジェクト

佐藤安信 副理事長

- ・ HSF/HSF セミナーの企画運営
- ・ 人間の安全保障学会の学生連盟と学会時にイベント開催
- ・ 出前講義、授業、カフェ（難民シリーズ）、スタディツアーなどの企画
- ・ 科学研究費補助金による各種研究会の共催
- ・ CDR, ANRIP との連携による難民の国際的保護活動
- ・ CDR、難民政策フォーラムの活動

## 3. ANRIP 会議の開催とまなび旅

佐藤安信 副理事長

立正佼成会の助成金で 8 月にまなび旅・ミャンマーを開催する。9 月 10-18 日にカトマンズで開催されるアジアプロボノ会議に参加し、ANRIP 会議を開催する。11 月 16-17 日に東大駒場キャンパスで開催される、人間の安全保障学会に学生らに参加してもらう。サイドイベントとして、ANRIP の会議を開催する。

#### 4. 「日本の人間の安全保障指標」プロジェクト

高須幸雄 理事長

SDGs の理念である 2030 年までに「誰も置き去りにしない社会」を達成するために、人間の安全保障の視点から、日本社会の貧困、格差、社会的排除の実態を可視化するプロジェクトを引き続き推進する。先進国に適合した人間の尊厳を中軸に置いた人間の安全保障の要素を総合的に指標化する試みは、世界でも初めての先駆的な作業であり、いわば、SDG の先進国版としての汎用性も期待されている。

指標プロジェクトの 2 年目になる 2019 年度は、「人間の安全保障学会」等の協力を得つつ、指標をさらに深く、広く広める活動を行う。

第 1 に、指標の精度、意義を国内でさらに高めていくことを目指す。具体的には、成果物を出版して、如何なる支援、政策が必要なのかを問題提起するとともに、京都、東京（11 月の東京大学における「人間の安全保障学会」総会）など国内数か所で発表・意見交換会を開催する予定。また、定期的に総合指標データの更新、見直しで指標の精度を高めるとともに、北海道、宮城県など（3-4 県のテストパイロット）の市町村別の差異を可視化する可能性を検討する。

第 2 に、SDGs 指標の先進国版として国際的に汎用性があるものとして、世界に日本の指標を紹介、普及していく予定である。